

令和5年度茨城県教育研修センター外部評価委員会

1 外部評価委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名
国立大学法人茨城大学	教育学部長	野崎 英明
国立教育政策研究所	教育政策・評価研究部 総括研究官	植田 みどり
独立行政法人教職員支援機構	理事長	荒瀬 克己
株式会社茨城新聞社	代表取締役社長	沼田 安広
有限会社アクティブコンピュータ	代表取締役	鈴木 宏治
水戸市立稻荷第一小学校	校長	森 久美子
茨城県立牛久栄進高等学校	校長	大崎 弘美
茨城県立伊奈特別支援学校	校長	奥岡 智博

2 実施計画、結果

第1回外部評価委員会	
開催日	令和5年7月25日（火曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・当センターの概要について・令和4年度事業実績について・令和5年度事業計画について・令和4年度外部評価委員会の評価結果について・事業評価に関する様式等について・研修講座参観・質疑応答
第2回外部評価委員会	
開催日	令和5年10月25日（水曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・研修講座の紹介・研修講座の参観・研修講座に関する意見交換等
第3回外部評価委員会	
開催日	令和6年2月14日（水曜日）※オンライン会議
議 事	<ul style="list-style-type: none">・令和5年度各事業の実績及び評価・外部評価委員による事業評価

令和5年度茨城県教育研修センター第3回外部評価委員会記録

日時	令和6年2月14日（水曜日） 午後1時30分から午後3時30分まで
方法	Web会議システムによるオンライン会議
出席者	<p>[外部評価委員]</p> <p>野崎 英明 委員 植田みどり 委員 沼田 安広 委員 鈴木 宏治 委員 森 久美子 委員 大崎 弘美 委員 奥岡 智博 委員</p> <p>[本センター]</p> <p>所長 秋本 光徳 次長 菅野 弘司 次長兼教職教育課長 坂上 有紀 企画管理課長 木村 正之 教科教育課長 海老澤 恭弘 情報教育課長 工藤 博幸 教育相談課長 関口 一治 特別支援教育課長 本城 知子 企画管理課指導主事 身内 卓也 企画管理課指導主事 松山 龍樹</p>
次第	<p>1 開会</p> <p>2 所長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和5年度各事業の実績及び評価</p> <p>(2) 外部評価委員による事業評価</p> <p>(3) その他</p> <p>4 閉会</p>

1 開会

2 所長あいさつ

3 議事

(1) 令和5年度各事業の実績及び評価（事務局より説明）

資料1「令和5年度事業等の実施状況」、資料2「令和5年度各事業における事業評価」、
資料4「令和5年度事業に関する100校抽出アンケート結果」について

(2) 外部評価委員による事業評価（○は委員、●は事務局を表す）

【1 研修センターの事業について】

○研修講座の受講者アンケートの結果も肯定的であり、各事業における自己評価も良好であることから、研究の運営や内容について、特に問題はないと考えられる。

○メールマガジンによる情報発信や、所員による熟議等での所員の啓発にも積極的に取り組むなど、シンクタンク機能の充実に取り組んでいる点も評価できる。

○研修内容と育成指標との関係性をどのように意識し、計画・運営しているのか。

●育成指標の項目を満たすために何が必要であるか意識して検討をしている。

●研修講座では、求められる力が何かを明確にするため、イントロダクションとリフレクションの時間を大切に、担当者と受講者で求められる力を具体化し共有していこうと取り組んでいる。

○研修支援の取組について更なる充実を期待したい。そのためにも、訪問指導だけでなく、学校同士をつなぐこと、よい実践を普及することなど、「ハブ」としての機能も充実する必要があると思う。

●研修支援以外においてであるが、研究協力校・長期研修の好事例等をメルマガで紹介するといった情報発信により、つなぐ機能を担っているところ。

●市町村教育委員会にも研修支援を行っており、研修内容がそこから各学校へと波及することを想定している。

●その他、センターの研修講座の経験者が、校内のOJTはもとより、周辺の学校や市町村研究団体等のリーダーとして自発的な研修の核となってくれることを期待している。

○シンクタンクとしてのセンターの存在意義を示し、事業が進められていることは評価できる。

●シンクタンクの機能として、Webページの研修講座資料室があげられる。センターが提供する資料であれば、受講しない講座の物であっても、全て閲覧やデータ入手ができる。

●研修講座では、各学校でのグッドモデルを発表してもらっている。それを見聞することにより、自校で構想・実践する際の参考にしてもらっている。

●Google クラスルームを使用し、担当者がハブとなり、情報交換の場をつくっている。研修資料の提供、課題の提出、よい資料の紹介等の情報共有、何か困ったことが生じた際の問い合わせに活用している。

○教育DX等の県の施策で、センターの役割はどのように位置づけられているのか。

●県教育委員会の方針がまだ決定しておらず、センターの位置づけも定まっていない。

【2 施設設備の整備等について】

○施設の老朽化がいろいろな所で見えるが、苦心しながら維持されていると感じる。

●長寿命化が大きな課題である。センターでは、法定の点検を今年度に行っている。外壁、屋根を中心に建物の維持管理という視点から、建築士の報告を受けるための業務を委託しているところ。これを基に緊急性高いものから改修を行っていきたいと考えている。

●講堂については来年度、屋根の改修工事を行う予定。

●空調設備については、効きが悪いや個別の制御が効きにくいといった課題がある。どのような空調の扱い方がよいのか検討しながらも、工事をどのようにするか考えていきたい。

●研修に関して、視覚障害がある方については点字での対応、聴覚障害のある方については手話での対応をしている。また、新たに、テキスト化する機械を導入し支援する取組も試験的に行っている。

○外部評価員の資料の文字がユニバーサルデザインのフォントになって見やすい。

○センターは、避難所に指定されているのか。

●避難所には指定されていない。ただし、東日本大震災の際には、一時的に宿泊施設を使用し避難所として活用した経緯がある。原子力事故が起き、ひたちなか市のオフサイトセンターが機能できなくなった場合は、代替オフサイトセンターとして使用することとなっている。

【3 外部評価委員会について】

○開催回数の3回、開催時期、評価方法について、現状のままでよい。

○研修講座参観が2回あったので、担当者や受講者の様子が昨年度よりもよく分かった。

○今回の第3回のように、研修講座参観がない場合は、オンラインでよい。

○教育相談について、相談の効果がよく分析されており、とても役立っている事業ということが分かってよかった。

○育成指標は、事業評価シートや令和6年度から本格的に実施される研修履歴シートにも活用できるので、どの研修講座にどの内容が関連するか整理してほしい。

●育成指標については、令和5年度の事業概要でもすでに掲載している。また、令和6年度

の事業概要から、育成指標の各項目と各研修講座のどの部分に対応しているかという対応表を掲載する予定。

- 事業評価シートの在り方については、難しいところで、どのような形がより適切な評価ができるのかと検討が必要だと感じる。特に、「企画運営の適切性」と「資質能力の向上の有用性」というこの二つについて評価しているが、それを判断する基準があるとよい。
- 育成指標との関連を取り入れていくことで、より適切な評価につながるのと思う。今後も検討して行ってほしい。
- 現在の事業評価シートになってから2年目が終わる。来年度に向けて評価方法が適正であったか検証することから始めていきたい。

(3) その他

事務局から今後のスケジュールについて説明

4 閉会